



●「そうだ、自分でつくるんだ。」 3学年主任 山岸陽一

開校当初の学校パンフレットの表紙に「そうだ、自分でつくるんだ。」というコピーがあり、当時から本校にいる私にとってこの言葉が常に中心にあります。学ぼうと思えば世の中には学ぶ方法はたくさんあります。本やインターネット、動画、先生、友達、親、などがあるし、本やインターネットでもその種類も豊富である。そんな世の中で、学ぶ内容を与えてもらうのを待っているのか、自ら得ようとしていくのか、基本的な学び方に対する考え方をこの若い時にもつことは、生涯にわたって大切なことだと思います。今回の学年だよりには、そのことに気がついている生徒が多くいてうれしく思っています。

**【義務教育の終わりと自分づくり】**義務教育が終わることを生徒の皆さんは、意識しなければなりません。給食がなくなるのも、学校から与えられるものを食べるのではなく、食べるものを自分で用意すること、その考え方自体が義務教育の終わりを意味しているのかもしれませんが。親が用意してくれたものを食べる、そのうち食べるものを自分で用意する 때가来ます。4年生からは、学校でも欠席したら、自分の責任となり、欠席日数が多かったり、成績が思わしくなかったら、その責任は自分に返ってきます。改めて、学ぶ動機づけを「自分をつくる」ために学ぶことにするとよいと思います。「親に怒られるから」、「期待に応えるために」、「ご褒美のために」の動機づけには、長い目でみるとゆがみが生じることがあります。王道の動機づけとして「自分をどうつくりたいか」にむけるとよいと思います。

**【自分の考えを多く手書きすることの効果】**自分づくりに欠かせないのは、自分の考えをつくることです。そして、それを「書く（手書き）」ことです。本校のレポートで苦しむのは、課題（問い）に対して、自分の考えがないこと、あっても書き表せないこと、そして書いたことがどう評価されるかを恐れることにあるかもしれません。以前紹介しましたが、樺沢紫苑著「アウトプット大全」をぜひ読んでみてください。そして、まねしてみてくださいはいかがでしょうか。1つの答えでなく、自分の考えを書くことを求める本校の学びを豊かにする技がここにはあると思います。そして、冬休みには、4年生4月にあるパーソナルプロジェクトとネタを集めてメモしておきましょう。

**【保護者の皆様へ】**

今年も学校での様々な取り組みに関しまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。3学年としての学校生活も残り3ヶ月となりましたが、今後とも変わらぬご支援のほどをよろしくお願いいたします。良いお年をお過ごしください。

★冬休み明けは1月21日（月）から学校が始まります。給食ありの4時間授業です★

1月21日（月）は①こころとカラダの時間②Lアセス③④コズプロです。

# min-na うれしい！ みんな ～Everyone is happy!!～

## No.45

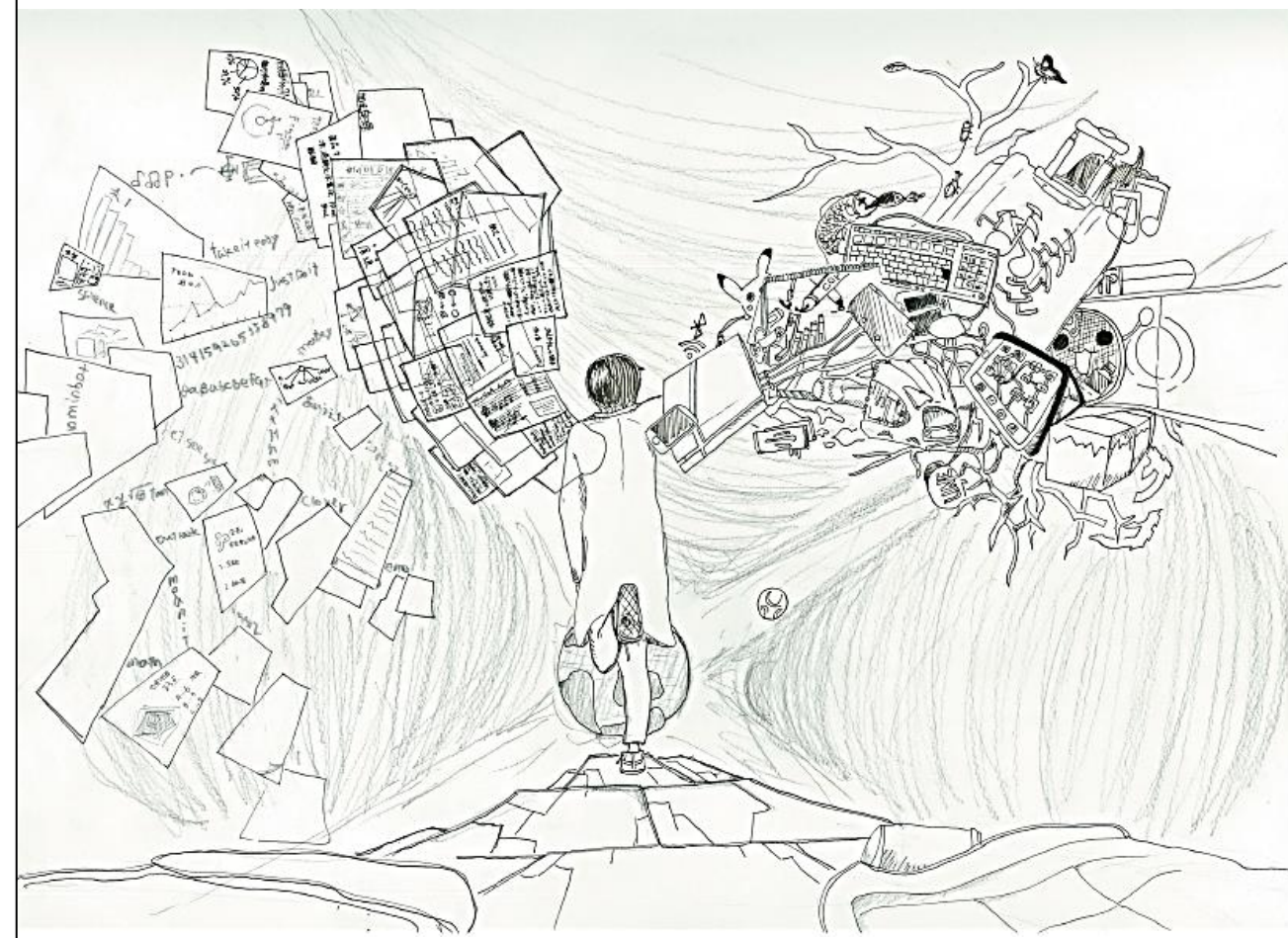
市立札幌開成中等教育学校 5期生 第3学年通信  
発行:平成30年12月25日 火曜日

今年最後の学年だよりになりました。気付けばあっという間に12月になりました。おそらく1月からの3ヶ月もあっという間に過ぎていくことでしょう。この「あっという間」の中で、みなさんはたくさんのことを学び、大きく成長していると思います。それは、どのような成長でしょうか。もしかしたら、自分では気付いていないような成長があるかもしれません。今回は、8～12月を振り返り、思ったことや感じたことを何人かに書いてもらいました。同じ4ヶ月でも、人によって感じ方やそこから学んだことは様々だと思います。仲間達がどのような4ヶ月を過ごしたのか、自分はどのようなことを感じたり学んだりしたのかについて、振り返ってみてください。気付いていなかった仲間達の成長や、自分自身の成長に気付けるかもしれません。

冬休みはゆっくり休んで、やりたいことを存分にやってみてください。1月から元気な姿を見せてくれることを楽しみにしています。(宮谷)

●3年1組 男子 タイトル『深化』

「8～12月を振り返って」というテーマで描きました。それぞれがこの絵から何かを感じ取ってもらえたらうれしいです。



# 8~12月を振り返って

## ●3年1組 女子

世間の中学3年生にとって大きな意味を持つ高校受験という言葉は、開成生の辞書にはない。その分私達は、より課題研究に専念したり自分の好きなことをする時間が確保できる。私にとって、夏休みから今までの4ヶ月間は、自分のことを深く考えることのできる期間になった。リサ研や探究 marché、そして日々の授業や放課後活動を通して、「自分は今どうするべきなのか」「どう改善していけばいいのか」を探し続けることができたと思う。

中でも、自己管理スキルをもっと磨かなければいけないという発見は大きかった。これからはさらに難しい内容だったり深く考察しなければいけない課題が増えてくる。だからこそ、今後はそのスキルがとても重要であることを意識して授業に取り組みたい。

3年生が終わる頃には、「来年度も楽しみだな」と笑いあえる心の余裕があることを願う。

## ●3年2組 男子

3年生も終わりに近づき少しずつ大学受験のことについて深く考えなければならない時が来ました。私は3年生としての日々を過ごす中でこれからの目標と自信ができました。1年生の時から「阿部だからできない」と言われ続け自分は何も出来ないと思う事が多々ありました。勇気を持って前に出ても上手くいくことは滅多にありませんでした。しかし、開成祭や1minなどでダンスに挑戦してみると喜ばしいコメントが多くあり、自分に自信を持てるようになりました。また同時に、絵を描く練習も始め、どちらも自信がついてくるようになりました。これからはこの2つはもっと伸ばしていきたいと考えています。何があっても努力すれば成し遂げられる事を実感しました。3年生にもなると将来の話をよくされます。自分はゲーム関係の仕事につきたいなと現在曖昧な考えを持っていますが、ゲーム関係の仕事につこうと考えたのも3年生での出来事が理由でした。絵を練習していく中で普段は風景画等を描いていましたが、キャラクターを描く練習をするようになりました。影、色、輪郭、髪の毛、それぞれの部位の位置関係などをいろいろな資料や人から聞いて学んでいく中で、自分の作ったキャラクターをゲームで使えるのではないかと考えました。自分の中ではゲームでプログラミングの道に進むのか、絵描きとして進むのか悩んでいたため、どちらも選べるようになり、目標も具体的にを見つけることが出来ました。今後は勉強も充実させていきたいです。

## ●3年2組 女子

「教えて」と誰かに言うのが苦手です。「もっと調べたらわかるはず」「他の人がわかっているんだから私もっと考えなきゃ」。そうやって結局「わからない」ままで終わってしまうということが今までにもたくさんありました。しかし、それでは駄目だということに気がきました。この4、5ヶ月の間、私は「誰かに頼ってみる」ということを意識して過ごしました。特に国語の最終課題では前回の最終課題の評価が悪かったことから全く手をつけられずにいたのですが、今のままではいけない、そう思い先生のところに質問に行きました。結果、評価はまだわかりませんが自分の納得のいくレポートを書き上げることができました。もっと早く質問に行っていれば、一人で悩み苦しむこともなかったのです。

自分の力だけで頑張ることは、もちろんいいことだと思います。しかし、どうしてもわからないことや質問があることは当たり前です。「無知を恥じず、無知に甘えることを恥じる」。わからないことがあれば素直に聞くことも大切だということ学びました。

## ●3年3組 女子

私は書道の大会で文部科学大臣賞を受賞させていただきました。この受賞した作品は8月の書道合宿のころから書き始め、合宿や日頃の部活を通して作品を書き上げていきました。最初は下手中の下手で、どうしようかと思いました。なので、まずは字形、次に大きさや字の収め方、線の強さ…と改善点を1つずつ見つけて1つずつ改善するよう努力しました。そのときに、人の作品を見ることも重要だと学びました。去年までは、「手本を見て書く」というよりも「原本」を見て書くというやり方が主だったので私にとって新しかったのですが、自分よりも優れているものを目の前に置きながら書く作業は私に良い影響を与えてくれました。しかし、まるっきり自分のやり方を変えたわけではないので、今回の賞は今までの自分が肯定されたようでとても嬉しく思います。これからも新しい方法を取り入れつつ書道書道して青春を真っ黒くしたいです。

## ●3年3組 男子

僕は8~12月を振り返って特にSAや社会レポートが印象に残っている。

SAは将来の夢であるカウンセラーにちなんで子どもと関わるボランティアに参加しようと考え、「あそびの学校」さんの活動に2回参加した。その時に感じたもう僕にはない子どもの無邪気さや元気の良さ、可愛さを感じ、ボランティアのやりがいを感じた。

また、社会のレポート作成は時間との闘いだった。チームで「行くぞ東京」を目標に掲げ、入賞以上を目指しグループレポートに3ヶ月全力で取り組んだ。その中でも一番大変なのは投資家へのアピールだ。投資家へのアピールは現在(12月16日)も苦しんでおり、まるで何を書いているのかわからない(終わった人助けて)。それに加えて個人レポートも白紙だ、これは詰んだ。3ヶ月間の悪戦苦闘は今でもとても印象に残っている。

以上のことをまとめると、君のためなら頑張れるという存在に出会えることはとても重要だということだ。SAでは楽しんでいる子どものために活動しているし、社会も3人のメンバーのために頑張ろうと思ってやってきた。他の人に対してそう思われるような人間になりたいと思った。

## ●3年4組 男子

8~12月を振り返り、私が最も印象に残っているのは部活と部活の大会です。私は演劇部に所属しており、8月の頭の大会で部員全員の努力もあり、中文連で初の最優秀賞をとることができました。12月の全道大会では惜しくも優良賞でしたが限界まで部活全体で高め合おうと行動できたので、良い思い出になりました。

大人になっても自分を形成する要素の1つとして残っていくと思います。しかし、やはり後悔する事も多く改善し続けなければならないので、できれば高文連という舞台でリベンジしたいと思っています。

## ●3年4組 女子

私は11月30日、12月1日に『避難所体験プロジェクト』に参加した。私を含め3年生11人は、運営と参加者の両方の立場での参加だった。運営としては、「DOはぐ」という避難所設営体験ゲームの際、どのくらい1年生にアドバイスをするかなどの参加者とのコミュニケーションの取り方や、運営とは何なのかを考える機会になった。参加者としては、普段は当たり前な、暖かく品数の多い食事や、布団で寝られるということは、すばらしいことなのだ実感した。今年の9月に起こった北海道地震で、私は避難所生活を行わなかったが、東日本大震災などで数ヶ月避難を続けていた方は本当に大変だったんだということを改めて思い知った。また、北海道地震の際に目の当たりにした沢山の大人の努力が、いかに大変なものだったかを忘れずにいようと思った。今回の経験を糧に災害への備えをもう一度見直し、もしもの時に活かしたい。